

市報

ののうち ののまこと VOL.37

後援会だより—October

発行日:2020年10月31日

発行: ののうち誠後援会
〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670
電話・FAX 0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp
ブログで日々の活動を紹介しています。フェイスブックもやっています。
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

新型コロナウイルス感染症対策に全力投入です 9月定例議会

松江市議会9月定例会は9月2日に開会し、当初10月2日までの予定を7日間延長し10月9日に38日間の会期を終え閉会しました。

市長提出議案の総額12億6,638万円の令和2年度一般会計補正予算案など24件・決算14件の議案を原案通り可決、認定しました。なお、松江市新庁舎建設事業に関する住民投票条例の制定については、反対多数で否決されました。(2・3ページの「課題クローズアップ」で取り上げています)

また、議員提出議案2件が提出され、我が松政クラブが起案した『「少人数学級編成」の現行制度の拡充によるコロナ下での教育の質及び財源の確保を求める意見書について』と、「国土強靱化、老朽化対策を含む地方の社会資本整備の促進を求める意見書について」は、提案通り可決しました。

6月定例会以降の松江市の新型コロナウイルス感染症対策関連事業は、8月7日の8月臨時議会で専決処分報告を行った「令和2年度補正予算 一般会計第4号」で7億4,644万円余、その内容は商業・サービス業感染症対応支援事業。また、「令和2年度補正予算 一般会計第5号」で、補正予算額は4億7,247万円余。特別定額給付金の支給対象とならなかった4月28日以降の出生児1人につき10万円支給を市単独で給付、プレミアム付飲食券発行2万組の追加販売への事業なども含まれています。

そして、9月定例議会では、「令和2年度補正予算 一般会計第6号」で7億2,474万円余、交通系ICカード導入や

路線バス事業者への運行支援などを計上。9月29日に追加提案の「令和2年度補正予算 一般会計第7号」で1億6,238万円余。製造業緊急販路拡大等支援事業1億円などを計上しました。新型コロナウイルス感染症対策に全力投入です。
(予算金額や提出議案の詳細は市ホームページや市報等をご覧ください)



最近の活動から

決算監査の市長報告

市監査委員として7月と8月に、一般会計など14会計の令和元年度決算監査を行い、3種の審査報告書にまとめました。総体としては健全化に向かった決算内容でした。その結果を、8月28日に3監査委員揃って松浦市長に報告し、課題についても意見交換を行いました。



決算監査報告後の意見交換

自転車安全運転マナーの指導

秋の全国交通安全運動期間中の9月30日に「自転車マナーアップ街頭指導」が全市一斉で実施され、東出雲交番近くの国道9号線交差点に立ちました。東出雲中学校生徒



東出雲交番近くの交差点で街頭指導

や出勤途中の皆さんに自転車のマナーアップを呼びかけました。コロナ禍で全ての交通安全行事が中止になる中、唯一の出番でした。

一畑バス荒島行き運行開始

9月末で約85年の運行に終止符を打った日ノ丸バス米子～松江線に代わり、10月1日から一畑バス松江～荒島線が4往復の運行を始めました。



イエローバス(安来市広域生活バス)4便と合わせ、合計8便(往復16便)に変更ありません。今後の継続のためぜひご利用ください。

揖屋馬潟線の予定地下に遺跡

10月22日に、揖屋馬潟線の早期完成を目指す揖屋馬潟線建設促進会議の総会が東出雲支所で開かれました。現在工事中の660m区間は今年度末に完成予定ですが、東側の1,200m区間の崎田地区内での遺跡試掘調査で「古代の道」が見つかり本格的な調査を行うことの説明がありました。



計画予定地の「古代の道」の位置

1,200m区間は令和3年度から本格的な工事に着手予定でしたが、この調査によって最低1年間事業が遅れる見通しになりました。早期の全面開通を願い取り組みを続けます。

12月定例議会予定

- 12月 2日(水) 本会議(会期の決定、提案説明)
- 7日(月) 一般質問
- 8日(火) 一般質問
- 9日(水) 一般質問・議案質疑・委員会付託
- 10日(木) 総務委員会・予算委員会総務分科会
- 11日(金) 教育民生委員会・予算委員会教育民生分科会
- 14日(月) 経済委員会・予算委員会経済分科会
建設環境委員会現地視察
- 15日(火) 建設環境委員会・予算委員会建設環境分科会
- 18日(金) 予算委員会
(分科会長報告・質疑・討論・採決)
- 22日(火) 本会議(委員長報告、質疑・討論・採決)、閉会

後援会のお知らせ

ののうち誠後援会にご加入いただき、一緒にまちづくりをしていきましょう。この度後援会だよりvol.37を発行いたしましたので、ご覧いただけますようお願い申し上げます。

ののうち誠 プロフィール

昭和25年生まれ(現在69歳)出雲郷小学校→東出雲中学校→島根県立松江農林高校→東出雲町役場就職(平成23年3月に町参事を最後に退職)→平成23年8月松江市議会初当選、平成25年4月2期目当選 平成29年4月3期目当選

ホームページ、
ブログはこちらから



◆後援会事務局◆

〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670
TEL・FAX / 0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

課題 クローズアップ

新庁舎建設事業の住民投票条例案を否決 9月定例議会

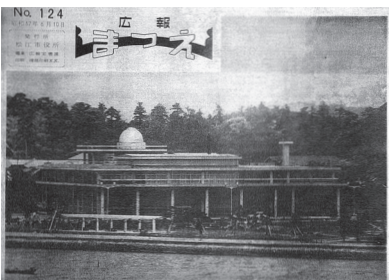
市民団体からの署名活動を経て提出された、新庁舎建設の一時中断の是非を問う「松江市新役所建設事業に関する条例制定について」。市議会9月定例会に追加上程され最終日の10月9日に審議の結果、反対多数で否決されました。今号では、このことについて考えます。

審議の結果、反対多数で否決

「議第157号 松江市新庁舎建設事業に関する住民投票条例の制定について」は、9月定例会最終日に審議されました。

質疑では、わが松政クラブから幹事長の野津直嗣議員が会派を代表して、条例提案者である松浦市長に質問しました。この質問文は、これまで複数回の会派総会などで練り上げたものです。

野津議員は、①条例文について、②市長の反対意見書について、③請求代表者の意見陳述についての3点について質しました。質問の締めくくりとして、「片岡氏が『自分と違う意見の人と出会えば、お互い納得を促すプロセスを



市役所竣工を伝える昭和37年6月発行の松江市報。現在の市庁舎は竣工から58年目を迎えました

表者の意見陳述についての3点について質しました。質問の締めくくりとして、「片岡氏が『自分と違う意見の人と出会えば、お互い納得を促すプロセスを

住民投票への考え方

ラプのみ討論を行いませんでした。その後採決が行われ起立で表決がありました。その結果賛成4（共産党市議員3名、出川議員）、反対27で、議第157号は否決されました。なお、貴谷議員と三島進議員は棄権しました。

そもそも住民投票は、地方自治法で認められていますが、重要政策の判断に限られると考えます。例えば、大阪府をなくして4特別区を設置するという大阪府構想などは市民生活に大きな変化を伴う事であり有効と考えます。二方、市庁舎の改築は大きな予算を伴いますが、約60年に一度



過去に行われた新庁舎建設に関するワークショップの一場面(議会資料として市が提供)

は必ず訪れる課題であり、政策というよりも公共施設の機能回復に関わるものだと考えます。

そのための市民の皆さんからの議論提案は、老朽化が明らかになった時から発議されてもいいものでした。今回の新庁舎建設にあたっては、市からの基本構想策定のための市民会議やワークショップに参加された市民も多くあり、パブリックコメントや市民アンケート

トでの機会もありました。そこからの市民の意見は市行政と議会とで情報共有してきたものと考えます。市民には機会を与えられてこなかったのではなく、機会は過去にあったそれを知らなかった、又は関心が薄かったという事ではないでしょうか。このことが議会審議を行い建設予算成立後の今回の署名活動などに唐突感を感じる所以です。市民の皆さんからの意見の発信は、他に市民によるアンケートの実施や要望、陳情請願でもできたはずはです。

新庁舎建設についての考え方

庁舎位置についても、現在場所から他所に移転しなければならぬ理由が見つかりません。仮に他の場所選定を検討するとすれば、現在の市庁舎敷地の処分方法をセットとして考えなければなりません。

市民の皆さんの声としての、「コロナ禍による先行きの不透明と今後の財政見通しの心配は、地方財政法による国の交付税制度や今後の慎重な財政運営によって克服すべき課題です。新型コロナに限らず今後の大災害の発生など幾多の困難の予測は不可能です。



市役所の廊下は雨降りの度にバケツが置かれます

老朽化が深刻に進行している現庁舎の建替えは地震対策など喫緊の現実の問題で、立ち止まらずに歩きながら考える大問題です。

財政面からの考え方

総事業費約150億円の内訳は、50億円は貯金から、残る約100億円は起債(借金)です。この起債は公債(公共施設等適正管理推進事業債)という有利なもので、約30億円は後々普通交付税として国からの交付対象となりますが、令和2年度までに実施設計に着手した事業が対象で、この好機を逃さないことも大切な視点です。

松江市のこの数年の総予算は、

■実施設計事業費の状況		(単位:千円)					
		【基本設計】 25,250m	増減	【実施設計】 25,370m			
設計等	基本構想・基本計画、基本設計・実施設計、備品設計、事務費等 アスベスト調査、敷地測量調査、地盤調査、工事損害調査等 工事監理委託	552,884	2,157	555,041			
工事費	1期	13,654,603	▲42,125	13,612,478			
	2期						
	3期						
	その他				792,513	39,968	832,481
	合計				15,000,000	0	15,000,000
	財源				社会資本整備交付金	25,593	459
	一般単独	600	0	600			
	公通債	9,961,400	▲300	9,961,100			
	庁舎建設基金	5,000,000	0	5,000,000			
	一般財源	12,407	▲159	12,248			

事業費に対する市の実質負担	基本設計		実施設計	
	600	0	6,972,980	6,972,770
一般単独事業債	600	0	6,972,980	6,972,770
公通債の70%	6,972,980	▲210	6,972,980	6,972,770
庁舎建設基金	5,000,000	0	5,000,000	5,000,000
一般財源	12,407	▲159	12,407	12,248
計	11,985,987	▲369	11,985,618	11,985,618
【参考】地方債元金に対する交付税措置	2,988,420	▲90	2,988,330	2,988,330

市の提供資料

野々内の考え方

野々内氏は、市議会新庁舎建設特別委

800億円台、うち一般会計は約1000億円です。実質の借金負担額は約70億円となり、新庁舎は一般会計ですので30年償還の起債を組めば1年に約4億円負担の償還になります。それが負荷になるかといえ、本市の財政スケール上問題ない数字だと考えます。

また、この借金の償還期間は30年。公共事業の借金は「世代間の負担の公平」という考え方があります。新庁舎の場合、完成してすぐ使う人と30年後に使う人が建設費を分担するという考えに基づいています。

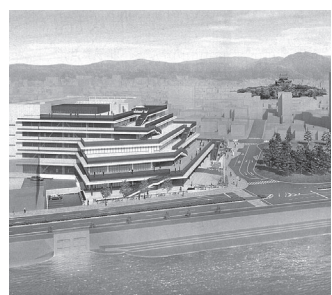
今後のスケジュール

9月市議会閉会後の新庁舎建設特別委員会では、現在地で建設の実施設計完了によって、10月29日に工事入札

委員会の第1期委員として、また新庁舎建設の諸予算を議決してきた立場として、議会制民主主義に則り、議第157号に否決の立場をとりました。

市民の皆さんによる新庁舎建設をめぐる1万5千人近くの署名活動や関連する活動は、市民の皆さんの行政に対する関心を高める効果がありました。一方で、冷やかな市民の声や声なき声があったのも事実です。またに分断が生じないようこれからのまちづくりには工夫しなければならぬと感じています。今回の議会の判断が、これからのまちづくりを担う子どもたちにとって希望の持てる最善の判断であったことなるよう、議員としての思い責任を背負いながら今後も努力していきたいと考えています。

そして、今後も、建設事業費の軽減や市民の皆さんの声の反映に努力していく考えです。また、支援していただいている後援会など市民の皆さんに説明や話し合いをしていきたいと考えています。一方で、市執行部には火中の栗を拾うがごとくの市民の皆さんへの理解が得られるような丁寧な説明を期待しています。



新庁舎イメージ図